

【研究費区分】：ミニ研究環

【研究代表者所属】：都市環境学部自然・文化ツーリズムコース

【研究代表者氏名】：岡村祐

【研究代表者氏名フリガナ】：オカムラユウ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

・都市環境学部自然・文化ツーリズムコース，岡村祐，准教授

【研究環組織名】：オープンシティ研究会

【研究環 HP（*本研究環組織の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

・ <https://www.facebook.com/opencity.JAPAN/> （フェイスブックページ）

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800 字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

本研究課題は、地域における身近な資源を期間限定で一斉公開し、「都市をひらく技術」として注目されている「オープンシティ・プログラム」のなかでも、とりわけ建築物を対象とする「オープンハウス」の理念や技術について考究し、国内外の関係者のネットワーク構築を目指すものである。すでに、研究代表者岡村、横浜国立大学野原卓准教授、東京都市研究所田中暁子研究員によって組織されていた「オープンシティ研究会」が中心となり、ロンドンや大阪との連携を構築し、調査研究を進めてきた。具体的には、①オープンハウス・ロンドンの主宰者ヴィクトリア・ソートン氏の招聘・研究集会の開催、および②大阪におけるオープンハウス主催者との学術交流を行った。

前者に関しては、「オープンシティ・シンポジウム」と題して、先進事例「オープンハウス・ロンドン」を20数余年にわたり先導してきたヴィクトリア・ソートン女史を英国より招聘し、東京、横浜で連続シンポジウムを主催し、ロンドンでの取り組みを紹介した。同時に、パネルディスカッションを行い、東京会議では日本の各地の取り組み（大阪や大田区）との比較、横浜会議では市内で実施されている類似プログラムの関係者を交えた議論を行った。

後者に関しては、大阪都心部で実施されている建築物一斉公開プログラム「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス）」の主催者と連携し、上記の「オープンシティ・シンポジウム」の第三弾を「イケフェス」のクロージングイベントとして実施するとともに、「イケフェス」実行委員会メンバーを上記の東京でのシンポジウムにも招聘した。

今後は、オープンシティ研究会として、これらの会議開催や交流の成果を踏まえて、図書の出版を予定し（2017年6～7月頃）、首都大学東京オープンユニバーシティでの講座開講も企画している。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

- ・ 岡村祐・豊田純子・野原卓・川原晋（2016）：「我が国における工場一斉公開プログラム「オープンファクトリー」の開催動向と可能性」，日本都市計画学会学術研究論文発表会，東洋大学，2016年11月

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

- ・ 岡村祐・川原晋・野原卓（2016）：「産業観光まちづくり」における「エントリーモデル」としてのオープンファクトリー（工場一斉公開プログラム）：「おおたオープンファクトリー」の事例分析」，2106年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門研究懇談会「観光地域は都市計画・まちづくりに何を期待するのか？」，日本建築学会、pp.25-28
- ・ 岡村祐・豊田純子・野原卓・川原晋（2016）：「我が国における工場一斉公開プログラム「オープンファクトリー」の開催動向と可能性」，日本都市計画学会論文集，51-3，pp.619-626

【学術会議開催実績報告】

- ・ 「オープンシティ・シンポジウム 建築をひらき、まちをひらく ～オープンハウス・ロンドンの25年～」，首都大学東京主催・横浜国立大学共催，オープンシティ研究会企画，東京大学福武ホール，2016年11月2日，参加者79名
- ・ 「オープンシティ・シンポジウム ロンドンに学ぶまちの「開き方」 ～オープンシティ・横浜を目指して～」，横浜国立大学主催・首都大学東京共催，オープンシティ研究会企画，東京大学福武ホール，2016年11月4日，参加者80名

【科学研究費補助金への応募状況，採択状況】

- ・ 科学研究費補助金（基盤研究（C））・地域資源マネジメント手法としての「資源一斉公開プログラム」の有用性及び可能性・研究代表者，2015-2017年，3,500千円

【国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし

【受賞等】

なし

【その他社会貢献】

【公的審議会・委員会等の公的貢献，生涯学習支援・普及啓発，国際貢献・国際交流等】

上記の学術会議を除けば、本研究課題に直接関連するものはなし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

（工業所有権の名称，発明者，権利者，工業所有権の種類・番号，出願年月日，取得年月日）

本研究課題に直接関連するものはなし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額 (円))

- ・岡村祐, 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース, 800 千円